

本市の特徴を生かした食育をどう推進していくか

市民が主体的な行動につなげられるよう支援し、市民とともに食育活動を推進していく



内藤 喜久枝
自由民主党田原市議団



本市の目指す食育について

問 たはら食育推進計画2026で重点と考える取り組みは。

答 「朝食の欠食割合」「朝食に野菜を食べている人の割合」「肥満の割合」がいずれも目標値を下回っていることを重大な課題と捉え、高校生朝ごはんレシピ事業やたはらヘルシーカフェ事業を実施し、特に食を通じて健康な体をつくるという視点を重点と考える。

問 成人男性の肥満の割合が、前回よりも悪くなっているが、肥満解消の取り組みは。

答 新たな取り組みとして、どなたでも参加できる栄養バランスや自分に適した摂取量を考えた食事の試食や講座など、体験型の指導を通して、生活習慣病や肥満予防を目的とした、食生活アドバイザーによるたはらヘルシーカフェを開始する。

問 食育計画を推進する上で、食育事業の内容を広くわかりやすく市民に周知するための情報発信として新たに工夫している点は。

答 食育推進計画の概要版に食育実践のチェックシートを掲載し、各自の食育への取り組み状況を把握することができるようにしたため、各種イベントや講座で配布するなど、計画の周知を図っていく。また、SNSやLINEなどを有効活用し、誰もがいつでも情報収集しやすいよう工夫していく。

問 本市は、農業、漁業が盛んであり、市内には農業高校もあるという特徴があるが、それを生かした食育を今後どのように推進していくのか。

答 農漁業が盛んな特徴を生かした料理や郷土料理のレシピの作成、給食には可能な限り本市で生産された農産物の使用、地域の方々との交流を通じた茶摘み、ノリづくり、地引網、潮干狩りなどの体験学習、野菜ソムリエの資格を有するベジエール渥美による朝食に使える簡単野菜レシピの作成や食育講座、親子料理教室の開催など、市民団体や生産者などと連携し、より多くの市民が食育への関心を高め、主体的な行動につなげられるよう支援し、市民とともに食育活動を推進していく。

問

実証調査において確認された新たな課題は。市内西部地域の学校からは、移動時間などの問題から、近隣へのプール整備の必要性が、また徒歩による移動を予定している学校からは、移動の安全性などの新たな課題が確認された。

問

県内で行った調査の中で、特に参考になった事例は。西三河の自治体では、小規模学校同士が合同で民間プールを活用して水泳授業を実施しており、児童数や費用面を考えると効率的である。また、他校との交流、児童間の交流も促進され、大変有意義である。

答

10校を対象に調査を行い、衛生・安全管理、移動時間、コストの試算などを検討している。

問

令和3年度の実証調査を含め、集約化への現在の取り組み状況は。

学校プール集約化の取り組み状況について

実証調査で確認された課題は

市内西部地域へのプール整備の必要性や移動の安全性など



鈴木 和基
自由民主党田原市議団

